



大勝建設株式会社

代表取締役 宮内 隆氏

本社 茨城県神栖市波崎8850番地
設立 1950年4月
従業員数 33名(2024年1月現在)
事業概要 土木工事、建築工事、舗装工事、とび・大工工事、しゅんせつ工事、水道施設工事(しゅんせつ工事はQMS登録範囲外)



株式会社筑波銀行 波崎支店長 柳橋 英二
大勝建設株式会社 代表取締役 **宮内 隆氏**
筑波総研株式会社 代表取締役社長 木村 伊知郎

地域社会の発展を通して 社会の繁栄と我々の幸福を実現



会社の歴史について語る宮内社長



インタビュー日/2024年1月12日
〔聞き手：筑波総研株式会社 代表取締役社長 木村伊知郎〕 取引支店：株式会社筑波銀行 波崎支店

千葉県・茨城県を主体とした 総合建設業

はじめに御社の概要についてお聞かせください。

当社は、茨城県の南端、太平洋と利根川に面した神栖市波崎町に本社を置き、国・千葉県・茨城県の公共工事の他、鉾子市・神栖市の工事を主体として建設工事と土木工事を行う総合建設会社です。

対岸の鉾子市とは鉾子大橋を渡るだけの地理的条件もあり、創業以来、千葉県とのつながりが深く、鉾子市に支店を置いて着々と実績を積み重ねてきました。

事業に占める割合は、公共工事が8割、民間工事が2割です。公共工事では、国土交通省や茨城県、神栖市、鉾子市など自治体の関連施設や学校、病院などの建設工事、利根川の護岸工事や港の改修工事、有料道路の新設や国道の舗装工事など、地域社会のインフラに関わる土木工事を行っています。

土木工事では築堤工事も多く、特に鉾子市では利根川沿いで堤防のない箇所も多く、これからも工事の受注が見込まれています。

一方、民間工事では企業の事務所や学校、福祉施設、保育園などの新築・改修工事などを行っています。



土合地域交流・保健福祉センター建設工事(施工日:2023年12月18日)



鉾子市斎場外壁改修その他工事(施工日:2023年12月18日)



本社ビル

銀行のアドバイスで大きく成長

学校卒業後に銀行へ入られて、その後、大勝建設様へ入社されていますが、銀行を退職して建設会社に入社された理由についてお聞かせください。

1964年に学校を卒業後、筑波銀行の前身である茨城相互銀行へ入行し、銚子支店へ配属されました。その後1968年に、父と二人の兄が営んでいた建設事業を軌道に乗せるために銀行を退職して、三人兄弟がまとまったときに大勝建設株式会社を設立しました。

設立後の3年間は、茨城相互銀行さんからさまざまなアドバイスをいただき、現在の基盤を構築することができました。それ以来、筑波銀行さんには長いお付き合いをさせていただいています。

キャリアアップにつながる資格取得

公共工事を受注する上で、資格取得者を確保されていると聞きましたが、どのくらいいらっしゃるのですか？

公共工事を受注するにあたっては、現場の工事管理や安全管理を行う現場責任者に資格を求められる工事がありますが、お恥かしい話、当初は有資格者は殆どおりませんでした。

それが現在は、土木施工管理技士の1級を持つ社員が16名、2級を持つ社員が2名、建築施工管理技士



の1級を持つ社員が7名、2級を持つ社員が7名、中には建築・土木の両方の資格を持つ社員もおり、お陰様で何ヶ所も現場を持つことができています。

有資格者が殆どいなかった頃、どうすれば良いかと考えた結果、資格手当を出すことで有資格者を増やそうと試みました。しかし、思うようにはいきませんでした。それが、土木または建築それぞれの施工管理技士の先輩と行動させるようにしたところ、資格を取得すれば仕事の幅が広がりキャリアアップにもつながることを身を持って感じることで、自分も現場を任せられるようになりたいと考えるようになり、資格取得者が増えていくという好循環になっていると思います。

土木と建築それぞれの施工管理技士の資格は、入社後に取得することを推奨しています。現在も資格取得者には資格手当を支給していますが、それだけでは資格取得に対するモチベーションは高まらないと考えています。



利根川右岸芦崎排水樋管新設工事(施工日:2023年7月31日)



国道51号潮来市須賀地区舗装繕繕工事(施工日:2022年1月31日)

利根川護岸の維持管理に50年の実績

異常気象による災害が増えている中、河川の氾濫防止や高波の影響を受けないようにする護岸工事は地域柄多いと思いますが、注意されていることなどはございますか。

神栖市波崎地区及び銚子市本城町地区は、利根川下流にあり、また太平洋にも面していることから長年に亘り河川の護岸工事や改修、災害復旧、波崎港、銚子港などの港の環境整備工事に携わってきました。

利根川下流の護岸維持管理工事は、建設省(現:国土交通省)が外部に工事を発注するようになってから、約50年間継続して受注しております。

台風が来た場合は、4.5人でチームを組んで車での見回りを実施しています。判断の遅れが大事故につながることから、ベテランの社員は、長年の経験に基づき常に河川の流れや水位の監視を行い、一般の人では気が付かない河川の僅かな波の変化を察知し周囲の被害を未然に防止できるように行動しています。また、一緒に巡回している若手社員に対して微妙な波の変化を読み取る眼を教えることで、より多くの社員に継承しています。こうした取り組みを継続していることから、異変があった場合は、全社員が速やかに対応できるようになっています。それが、この地区における護岸工事を50年程度継続できている所以でしょうか。



利根川左岸別所築堤工事(施工日:2022年3月30日)

事業を通して会社の繁栄と社員の幸せを

経営理念として「地域社会の発展を通して社会の繁栄と我々の幸福を実現してゆく」とありますが、具体的にどのようなことを心がけていらっしゃいますか。

大勝建設株式会社の経営理念

我々は、最良の建設工事を施工することにより、お客様の事業と社会の繁栄に役立つ事を使命とする。

我々は、地域社会の発展を通して社会の繁栄と我々の幸福を実現してゆく事を使命とする。



経営理念は、2000年にコーポレート・アイデンティティ(CI)策定の一環として明文化し、同じ年に品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9002を本社・銚子支店で取得しました。

現在では、より網羅的な品質管理システム規格であるISO9001、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を取得し、お客様からの信頼醸成に努めています。

私たちの仕事の多くは地元の公共事業ですので、地域社会の発展につながっています。地域社会が繁栄すれば工事の機会も増えるという好循環が生まれ、それは社員の幸せにもつながっていくと考えます。

また、当社では地域の公共施設や学校、保育園などの建設工事、国道や河川などのインフラ整備などを行っています。私たちの仕事は、その結果が目に見える形で残るので、仕事に誇りを持つことができ、地域への貢献も実感することができます。

本業以外でも、鳥インフルエンザにともなう鶏の殺処分の手伝い、道路管理にともなう動物の死骸の処分など、地域社会の安心につながる活動も積極的に行っています。



働きがいと働き方改革

大勝建設様に限ったことではありませんが、人材不足、時間外労働時間の削減がいわれておりますが、どのような対応をなさっていますか。

私たちの仕事は他の業種と比較しても、将来性のある業務だと思っています。一度身に付けた知識や技術は将来まで自分のためになり、自分の人生をかけることのできる仕事です。責任が大きい分、やりがいも大きい。ただ、残念ながら、世間的には建設業界は休みが少なく、労働時間も長いという印象を持たれています。

建設業界では、「働き方改革」に関連して2024年4月の「時間外労働の上限規制」の適用を前に、時間外労働の削減や週休2日の導入に向けた取り組みが行われています。

発注元の国の機関や自治体は、働き方改革の実現や職場環境の改善など、将来の担い手確保に向けた取り組みとして、試験的に「週休2日制適用工事」を3、4年前から導入しています。当社も数件の受注経験があり、工事終了後に週休2日制を実施したことを証明する書類を提出しています。

当社では社員がしっかりと休みを取れる体制を整え、現場が完了したタイミングで長期の休暇を取り、家族旅行に出かける社員もいます。

また、社員のモチベーションアップのために給与支給を充実、毎年賃上げを実施し、頑張れば頑張った分だけ所得を高く維持できるようにしています。

社員の賃上げは、国土交通省の工事入札においても評価の対象となり、大手企業は4%以上、中小企業は2.5%以上を前年比で賃上げすると、6点の加点があり、当社ではこの基準をクリアしています。

加えて福利厚生の一環として社員用のアパートを所有しており、若い社員が生活しています。



円滑な社内コミュニケーション

会社の雰囲気はいかがですか。

会社の雰囲気は、非常に良いものと実感しています。皆が協力して、良好な関係を築いています。また、皆の自主性を尊重する社風が自慢です。

当社は業務の性格上、現場に出ている社員が多いため、社員が一堂に会する機会は多くありません。

一方で、比較的規模の大きい現場では数人がチームを組んで業務にあたりますが、そこではベテラン社員や先輩社員が、若い社員に対して親身なコミュニケーションを心がけているようです。土木と建築の部門間のつながりも強固で、同じ現場のときに業務上の調整がしやすいと聞いています。会社の雰囲気について社員からは、「とてもいいですね。皆が仲良く連携が取りやすい。円滑にコミュニケーションできている気がします」という感想も聞かれ、うれしく思っています。

中途入社でもスキルを活かして活躍

社員の採用で心がけていることはありますか。

当社では、中途採用が新卒社員と比べて不利ということは何もありません。現場での業務を通し、一から覚えていくという意味では同じスタートラインですから。むしろ前職で培った技術や知識を、土木や建築の分野に活用することで活躍する社員が数多くいます。

例えば前職がパソコン関連の仕事だった社員は、パソコンの修理サービス部門に配属したり、現場能力がありそうな社員を技術者として育てたりしています。いまは現場でもパソコン操作が必須ですから、そういう人材が現場に入ることには相当なメリットがあります。

また、サービス業で培ったコミュニケーションスキルを活かして営業職として活躍している社員もいます。

銚子市沖洋上風力発電事業の 関連工事に従事

今後、茨城県の中でも県南地区については発展が期待されていますが、神栖市に本社をもつ御社としてどのように取り組んでいきたいと考えていますか。

神栖市は子育てサポートが充実するなど住みやすいまちという印象がありますが、そのきっかけの一つは1960年代に始まった「鹿島開発」だと思っています。神栖市、鹿嶋市にまたがる鹿島臨海工業地帯は、いまでも我が国有数の工業団地です。

鹿島開発にともない、進出した企業の代表と自治体トップとのコミュニケーションが頻繁に持たれ、公共施設など何か足りないものがあれば、それを作りましょうという合意形成がなされてきました。その結果、例えば市内にはたくさんの公園があり、当社でも多くの公園整備を手がけています。温水プールは「かみす防災アリーナ」「神栖市海浜運動公園」「はさきマリプール」と3か所ありますが、2023年1月に完成した「はさきマリプール」は、当社が建設工事を行いました。

また、銚子市発注の公共工事についても、親が建設業を始めた当時に契約して作った建物や、親の時代から行ってきた土木工事などがあります。建物は老朽化しますので、解体して作り直すかどうかは別として、過去に行った工事の改築や改修などの引き合いが今後増えていくと思っています。

このような公共工事の他に、神栖地区・銚子地区では大規模な洋上風力発電事業の計画が進展しています。

鹿島港の神栖市側の沖では、風車19基を設置して、最大約16万kwを発電できる風力発電を2026年度中にも運転を開始する予定となっています。

また、銚子市にある名洗港の沖でも風車31基を設置して40万kwを発電できる風力発電を2028年度中に運転を開始する予定ですが、銚子地区においては2020年7月に洋上風力発電の整備を進める促進区域に指定され、現在、総合商社グループが手掛ける洋上風力事業が進んでいます。この事業に関連して陸上では、銚子土木事務所が発注する、建設補助港やメンテナンス拠点としての港湾整備が進んでおり、当社も工事に携わっています。

これからも当社は、こうした地の利を活かして、経営理念にもあるように、「地域社会の発展」と「社会の繁栄」、そして「我々の幸福」の実現に向けて前へ進んでいきます。



鹿島臨海工業地帯



はさきマリプール建設工事(施工日:2023年1月31日)



洋上風力発電事業(イメージ)